

くつろぎタイム

大好きな温泉と説法で
英気を養い、
地域の方々との
多様な文化交流を通じて
相互に理解と信頼が深まる
心豊かな地域づくりに
役立ちたいと思います。

駐仙台大韓民国総領事館(青葉区上杉)
総領事

ヤン ケファ
梁 桂和 氏

1958年1月4日生まれ
大韓民国 全羅南道 新安郡出身
血液型O型



淑明女子大学独文学科を卒業後、

1980年12月外務部入部。駐日本大韓民国大使館副領事、慶応大学で1年間日本語研修、駐広島大韓民国総領事館領事を経て、駐フランクフルト大韓民国総領事館領事、駐ネパール王国大韓民国大使館参事官、駐瀋陽大韓民国総領事館領事などを歴任。2013年8月駐仙台大韓民国総領事館副総領事に就任し、2015年2月に一時帰国後、4月8日より現職。好きな言葉は「七転び八起き」。「八起きどころではなく、100回でも1000回でも起き上がりたいですね。過ぎたことは、どんなことでも良いことだったと思うようにしています。どんなにつらいことも、必ずそこから学ぶことがあるからです。元気の源は温泉ですね。それと、私も夫も仏教徒で、家にいるときには動画共有サイトにアップされているお坊さんの説法を聞いています。そうすると、心が落ち着くんです」と笑顔で話す。

2年前に仙台に赴任され、時帰国を経て、この4月、総領事として再び来仙されました。改めて仙台の印象をお聞かせください。

いつ行っても美しい定禅寺通りをはじめ、緑に恵まれたまちを見て「杜の都」仙台を実感しました。30分ほど車で走れば、空と田園の美しく広がる風景が見られますし、お祭りやイベントがとても多く、クラシックコンサートや伝統芸能に気軽に触れることができる環

境も整っています。

前任地は中国の瀋陽でした。仙台での勤務が決まったとき、はじめ、私の2人の子どもたちは「私たちは瀋陽に残る」と言っていたんです。けれども、「お母さんの赴任先である仙台がどんなところかだけ見に行きましょう」ということで、仙台で七夕まつりを準備する光景を見たり、松島の美しい風景を眺めたりして過ごすうちに、2人ともすっかり仙台が好きになってしまったようなのです。仙台に来るまでは、震災の風評を気にかけていた2人ですが、その心配を上回るほど気に入ったらしく、結局、子どもたちも夫も、私と一緒に仙台にまいりました。

私の最初の赴任地は日本です。最初の海外勤務地というのはとても大きな意味を持っていて、その後の外国での勤務に影響を与えるものですが、それが日本で良かったと思っています。ですから、仙台に来ることで子どもたちも日本を好きになってくれてうれしく思います。

震災から4年半が経過しようとしていますが、東北の震災復興の状況をご覧になって、どのように感じていますか。

毎朝、河北新報の題字の下の方に東日本大震災で亡くなられた方々と、行方不明の方の数が記されているのを目にします。いまでもずっと続いています。が、それくらい震災は東北の皆さんの心の中、そして日常の中のとて

な部分を占めていることを示しているのだろうと思います。

先日、駐日大使とともに石巻の日和山公園や仮設住宅に伺いました。昨年、地元でとれたホヤを使ったビビンバの料理講習会を開きました。また福島県の相馬市にも伺いましたが、施設的な面では、60%くらいは復旧しているという印象を持ちました。震災の風化を防ぐために、被災地の方が語り部となって、観光客に震災のことを伝えたり、阪神・淡路大震災を経験した人たちと連携して、防災や減災につながる情報を発信しようとしたりする姿に、震災で受けた悲しみや苦難を乗り越えて、人もまちも強く生まれ変わるきっかけにしようとしている意気込みを感じました。それはとても尊く、すばらしいことだと思えます。

今年には日韓国交正常化50周年の年であり、来年は駐仙台大韓民国総領事館も創立50周年を迎えます。この節目に、日韓関係について期待することはどんなことですか。

今年の春、「韓国伝統芸能公演」を仙台で開催し、韓国から重要無形文化財保持者をはじめとする韓国古典芸能の名人たちが来仙したのですが、その中で復興支援ソングとして知られる『花は咲く』を演奏したところ、皆さんがとても大きな拍手を送ってくださいました。これが印象に残っています。このように、お互いの文化を楽しむ機会をもっとつくっていききたいと思えます。

韓日は数千年の交流の歴史があり、1965年の国交正常化以降の50年で目覚ましい発展を遂げました。修交の年に訪日した韓国人は約5千人でしたが、2014年には約230万人と456倍に増加しました。輸出入分野も同様です。このような人的交流の拡大が経済文化関係につながり、友好関係のしっかりとした土台となっています。これからの50年はアジアと世界の平和繁栄のため、両国が未来をリードする方向で新しい韓日協力関係を模索しなければならぬと思います。日本と韓国はお隣同士で最も近い国ですから、国のレベルではさまざまな問題があっても、市民同士は相手のことをもっと理解できるように努力して、愛情をもって温かい交流を続けたいと思います。

今後の活動の予定をお聞かせください。

宮城県日韓親善協会、宮城県や仙台市の日韓親善議員連盟、仙台アジアナ

友の会など、親韓・知韓グループと情報・意見を多く交換したいです。このような親韓団体こそが韓国と日本を結ぶ大切な架け橋の役割をしています。そして仙台―光州、涌谷町―林川面等自治体間の交流を支援し、青少年交流、スポーツ交流なども拡大していききたいですね。

秋以降は、着物とチマチヨ



忙しい朝はリンゴの皮をむいて持たせてくれるという優しいご主人と、岩手県平泉を訪れたときの1枚。

ゴリのファッションショーや、総領事杯テコンドー選手権大会、県北で日韓親善交流会などを予定しています。11月には、今年で3年目になる、仙台白菜を使ってキムチをつくる「韓国キムチフェスティバル」も開催します。韓国映画友の会と共同で月に1回、第2土曜日に実施している韓国映画の上映会も引き続き行っています。

もしも周囲の皆さんの理解と協力が得られるならば、日韓の歌の大会や、韓国語を勉強している高校生や大学生を対象にした作文のコンクールのようなものも開いてみたいですね。良い文章を発表した人は、韓国に招待したり。彼らにこの領事館を見学したいという希望があれば、そのためのプログラムもつくりたいと思います。このような、地域に根ざした活動を通して、気軽に声をかけてもらえるような領事館になって、韓国や外国に親しみを感じる方々をたくさん作って文化的にも豊かな地域社会の役に立つ存在になりたいと思っています。

街

やさしい気持で暮らせるように……。

たくさんの方が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持で暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社／仙台市若林区蒲町19-1

電話 (022) 286-3161 (代)